

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3116112号

(U3116112)

(45) 発行日 平成17年11月24日(2005.11.24)

(24) 登録日 平成17年10月12日(2005.10.12)

(51) Int.Cl.⁷

A63H 3/50

A47G 33/02

A63H 3/00

F I

A63H 3/50

A47G 33/02

A63H 3/00

A

J

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2005-6999 (U2005-6999)
 (22) 出願日 平成17年8月26日(2005.8.26)

(73) 実用新案権者 592134077
 株式会社久月
 東京都台東区柳橋 1 丁目 2 〇 番 4 号
 (74) 代理人 100066223
 弁理士 中村 政美
 (72) 考案者 横山 久吉郎
 東京都台東区柳橋 1 丁目 2 〇 番 4 号 株式
 会社久月内

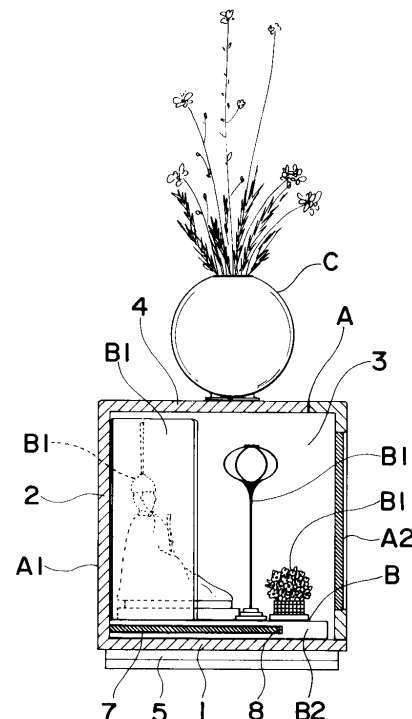
(54) 【考案の名称】 装飾体の収納・飾り装置

(57) 【要約】

【課題】 装飾体を収納兼用台箱内に簡単に安定的に収納でき、他の装飾体を収納兼用台箱に飾れ、保管スペースの確保が不要で、装飾体を開放的に飾れ、構成簡素で、外観上の体裁が良く、耐久性に優れ、取扱い易く、量産に適し、比較的低廉で、経済的で、飾り付けや、収納作業が短時間で行え、開口部を蓋体で開閉できる収納・飾り装置を提供する。

【解決手段】 装飾体Bと、装飾体Bを収納可能で、天板4部分に載置して飾れる収納兼用台箱Aとからなり、収納兼用台箱Aは、箱本体A1と、開口部を開閉自在な蓋体A2とからなり、装飾体Bは、複数の装飾物B1と、装飾物B1を予め所定の位置に固定する取付用台板B2とからなり、装飾体Bの使用時には、天板4部分に装飾体Bを載置して飾れるように構成し、装飾体Bの不使用时には、収納兼用台箱A内に収納しておくと共に、天板4部分に花瓶や置物等の他の装飾体Cを載置して飾れるように構成する。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

節句人形や羽子板や付属飾り等の適宜複数の装飾物で構成される装飾体と、この装飾体を収納可能に構成されると共に、装飾体を天板部分に載置して飾れるように構成される収納兼用台箱とからなるものであって、収納兼用台箱は、開口部を有する箱本体と、この箱本体の開口部を開閉自在な蓋体とからなり、装飾体は、複数の装飾物と、これらの装飾物が予め所定の位置に固定される取付用台板とからなり、装飾体の使用時には、収納兼用台箱の天板部分に装飾体を載置して飾れるように構成し、装飾体の不使用時には、収納兼用台箱内に装飾体を収納しておくと共に、収納兼用台箱の天板部分に花瓶や置物等の他の装飾体を載置して飾れるように構成したことを特徴とする装飾体の収納・飾り装置。

10

【請求項 2】

箱本体の正面がわに開口部を配し、箱本体の左右側板の内表面開口部がわに垂直ガイド溝を夫々配し、この垂直ガイド溝内に蓋体の左右端縁部分が収まるように構成したことを特徴とする請求項 1 記載の装飾体の収納・飾り装置。

【請求項 3】

箱本体の左右側板の内表面下部に水平方向に沿うようにガイド突起を夫々配し、このガイド突起が摺動自在に収まるような水平ガイド溝を、装飾体の取付用台板の左右端面部分に凹設したことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載の装飾体の収納・飾り装置。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

20

【0001】

本考案は、例えば、初節句の時に贈られる人形類（雛人形、五月人形、鎧飾り、兜飾り、わらべ人形、御所人形、市松人形、その他）、及びこれら人形類に関連する屏風、雪洞等の付属飾りや、或いは、幸運を祈る気持ちを込めて贈られる羽子板や、破魔弓や、これらの付属飾りや、或いは、その他、記念となるような贈り物等の適宜装飾物を複数利用してなる装飾体を構成し、この装飾体を、その不使用時には収納兼用台箱内に簡単に且つ安定的に収納しておけると共に、花瓶や置物等の他の装飾体を収納兼用台箱に飾れるように工夫した装飾体の収納・飾り装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

30

従来、例えば、子供が誕生して節句を初めて迎える場合等に、子供の成長と幸福を祈ると共に、子供の身代わりとなって厄を受けるという意味等から、両親や祖父母等が子供毎に人形類（雛人形、五月人形、鎧飾り、兜飾り、わらべ人形、御所人形、市松人形、その他）を贈るようにしている。

しかも、これらの人形類は、所定の期間飾られ、その期間以外は、特許文献 1 に示すような収納箱やダンボール箱等に収納して、物置等に保管されることが多い。

【0003】

【特許文献 1】 実用新案登録第 3013850 号

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

40

【0004】

そのため、物置等に保管スペースを確保しておく必要があり、現在の住宅事情では、この保管スペースの確保が難しいものとなっている。

また、雛人形や付属の道具類等は、バラバラに分離した状態で保管されるため、その飾り付けや、収納作業がかなり面倒であった。特に、収納時にあっては、収納箱内で移動しても損傷しないように、雛人形や付属の道具類を個別に緩衝材等によって包装する必要があった。

そこで、本考案は、前述の如き難点等を解消できるようにし、その不使用時には、花瓶や置物等の他の装飾体の載置台として利用できて、別途保管スペースの確保を必要とせず、また、その飾り付けや、収納作業が簡単に行え、収納状態が安定して、雛人形や付属の

50

道具類等を損傷することがなく、しかも、その構成が簡素で、外観上の体裁が良く、耐久性に優れ、取扱い易く、量産に適し、比較的低廉で、経済的となるような装飾体の収納・飾り装置を提供できるようにすべく案出されたものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

しかして、請求項1記載の装飾体の収納・飾り装置にあっては、節句人形や羽子板や付属飾り等の適宜複数の装飾物B1で構成される装飾体Bと、この装飾体Bを収納可能に構成されると共に、装飾体Bを天板4部分に載置して飾れるように構成される収納兼用台箱Aとからなるものであって、収納兼用台箱Aは、開口部を有する箱本体A1と、この箱本体A1の開口部を開閉自在な蓋体A2とからなり、装飾体Bは、複数の装飾物B1と、これらの装飾物B1が予め所定の位置に固定される取付用台板B2とからなり、装飾体Bの使用時には、収納兼用台箱Aの天板4部分に装飾体Bを載置して飾れるように構成し、装飾体Bの不使用时には、収納兼用台箱A内に装飾体Bを収納しておくと共に、収納兼用台箱Aの天板4部分に花瓶や置物等の他の装飾体Cを載置して飾れるように構成する手段を採用した。

10

【0006】

また、請求項2記載の装飾体の収納・飾り装置にあっては、箱本体A1の正面がわに開口部を配し、箱本体A1の左右側板3の内表面開口部がわに垂直ガイド溝6を夫々配し、この垂直ガイド溝6内に蓋体A2の左右端縁部分が収まるように構成する手段を採用した。

20

【0007】

更に、請求項3記載の装飾体の収納・飾り装置にあっては、箱本体A1の左右側板3の内表面下部に水平方向に沿うようにガイド突起7を夫々配し、このガイド突起7が摺動自在に収まるような水平ガイド溝8を、装飾体Bの取付用台板B2の左右端面部分に凹設する手段を採用した。

【考案の効果】

【0008】

従って、請求項1記載の収納・飾り装置によれば、適宜複数の装飾物B1で構成される装飾体Bを、その不使用时には収納兼用台箱A内に簡単に且つ安定的に収納しておけると共に、花瓶や置物等の他の装飾体Cを収納兼用台箱A（天板4の上）に飾れるようになる。すなわち、その装飾体Bの不使用时には、花瓶や置物等の他の装飾体Cの載置台として収納兼用台箱Aを利用でき、従来のような保管スペースの確保が不要となり、現在の住宅事情を考慮した収納・飾り装置となる。しかも、その構成が簡素で、外観上の体裁が良く、耐久性に優れ、取扱い易く、量産に適し、比較的低廉で、経済的なものとなる。

30

更に、装飾体Bの使用時には、収納兼用台箱Aの天板4部分に装飾体Bを載置して飾れるように構成してあるので、例えば、ガラスケース等に入れられたものより開放的に飾ることができるようにすると共に、豪華な雰囲気を楽しめるようになる。

特に、装飾体Bは、複数の装飾物B1と、これらの装飾物B1が予め所定の位置に固定される取付用台板B2とからなるので、その飾り付けや、収納作業が簡単に且つ短時間で行えるようになる。しかも、収納時に於いて、収納兼用台箱A内で損傷しないように、装飾物B1を個別に緩衝材等によって包装する必要がないものとなる。

40

加えて、収納兼用台箱Aは、開口部を有する箱本体A1と、この箱本体A1の開口部を開閉自在な蓋体A2とからなるので、箱本体A1に設けた開口部を蓋体A2で開閉できるようにすると共に、装飾体Bの収納兼用台箱A内への収納や取出しが簡単に行えるようになる。

【0009】

また、請求項2記載の収納・飾り装置によれば、開口部を箱本体A1の正面がわに設けてあるので、装飾体Bの収納兼用台箱A内への収納や取出しが簡単に且つ容易に行えるようになる。しかも、開口部を蓋体A2で簡単に開閉できるようにすると共に、その構成が簡素で、取扱い易いものとなる。

50

【0010】

更に、請求項3記載の収納・飾り装置によれば、取付用台板B2の水平ガイド溝8内に、ガイド突起7が収まった状態で装飾体Bを収納兼用台箱A内に収納でき、装飾体Bが収納兼用台箱A内でガタつくことなく安定的に保持されるようになる。ひいては、装飾体Bが損傷し難いものとなる。しかも、ガイド突起7を水平ガイド溝8が摺動するため、装飾体Bの取出しや、収納が僅かな力でスムーズに行えるようになる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0011】

以下、本考案を図示例に基づいて説明すると、次の通りである。

本考案は、例えば、初節句の時に贈られる人形類（雛人形、五月人形、鎧飾り、兜飾り、わらべ人形、御所人形、市松人形、その他）、及びこれら人形類に関連する屏風、雪洞等の付属飾りや、或いは、幸運を祈る気持ちを込めて贈られる羽子板や、破魔弓や、これらの付属飾りや、或いは、その他、記念となるような贈り物等の適宜装飾物B1を複数利用してなる装飾体Bを構成し、この装飾体Bを、その不使用時には収納兼用台箱A内に簡単に且つ安定的に収納しておけると共に、花瓶や置物等の他の装飾体Cを収納兼用台箱Aの天板4の上に飾れるようにし、更に、その使用時には、装飾体Bを収納兼用台箱A内から取出して、これを収納兼用台箱Aの天板4の上に飾れるように構成した装飾体Bの収納・飾り装置である。

しかも、収納兼用台箱Aは、開口部を有する箱本体A1と、この箱本体A1の開口部を開閉自在な蓋体A2とからなり、装飾体Bは、複数の装飾物B1と、これらの装飾物B1が予め所定の位置に固定される取付用台板B2とからなっている。

【0012】

また、本考案の収納・飾り装置は、箱本体A1の正面がわに開口部を配し、箱本体A1の左右側板3の内表面開口部がわに垂直ガイド溝6を夫々配し、この垂直ガイド溝6内に蓋体A2の左右端縁部分が収まるように構成されている。

【0013】

更に、本考案の収納・飾り装置は、箱本体A1の左右側板3の内表面下部に水平方向に沿うようにガイド突起7を夫々配し、このガイド突起7が摺動自在に収まるような水平ガイド溝8を、装飾体Bの取付用台板B2の左右端面部分に凹設して構成されている。

【実施例】

【0014】

前記収納兼用台箱Aの箱本体A1は、例えば、略矩形板状の底板1と、この底板1の後端縁に立設される略矩形板状の背板2と、底板1の左右端縁に夫々立設される略矩形板状の左右側板3と、背板2と左右側板3の上端縁に連設される略矩形板状の天板4とで、正面がわが開口部となる全体略矩形箱状を呈している。しかも、これら底板1、背板2、左右側板3、天板4は、収納される装飾体Bへの防虫、防湿効果等を発揮できるように、例えば、桐製の板材等によって構成することが望ましい。

【0015】

図中5は、底板1の下面に固着される脚部で、この脚部5は、例えば、収納兼用台箱Aの外観上の体裁を良くすると共に、底板1が床面等からある程度離れて、収納兼用台箱A内の通気性が良くなるように設けられたものである。

【0016】

垂直ガイド溝6は、例えば、左右側板3の内表面前端がわに上下方向に沿うように夫々凹設されており、蓋体A2が上下方向にスムーズに摺動できると共に、蓋体A2を上方に摺動させることで、蓋体A2を箱本体A1から分離できるように構成されている。

【0017】

ガイド突起7は、例えば、長尺四角棒状を呈しており、左右側板3の内表面下部に水平方向に沿うように夫々突設されており、装飾体Bの取付用台板B2の左右端縁部分に凹設した水平ガイド溝8に収まると共に、摺動自在に取付用台板B2を案内できるように設けられたものである。

【0018】

図中9は、例えば、左右側板3の外表面上部に凹設される取手部で、この取手部9は、手指等が掛け易くて、収納兼用台箱Aの移動等が容易に行えるように設けられたものである。

【0019】

前記収納兼用台箱Aの蓋体A2は、例えば、箱本体A1の開口部分に合致するような略矩形板状に形成されている。そして、その左右端縁部分の一部（或いは、全部）が、垂直ガイド溝6に収まるように形成されている。尚、蓋体A2の中央部分は、例えば、細長帯材を編み込んだように構成して、外観上の体裁が良くなるようにすると共に、その通気性等が良くなるように構成したものであっても良い。

10

【0020】

前記装飾体Bの装飾物B1は、例えば、メインとなる適宜人形類（雛人形、五月人形、鎧飾り、兜飾り、わらべ人形、御所人形、市松人形、その他）や、メインとなる羽子板や、破魔弓や、或いは、その他、記念となるような贈り物や、これら人形類等に関連した屏風、雪洞等の付属飾りや、その他の付属飾り等があり、これらが適宜組合わされて取付用台板B2の上面に固定されるように構成してある。

【0021】

前記装飾体Bの取付用台板B2は、例えば、比較的厚みのある矩形板材等で構成され、箱本体A1の底板1や天板4より僅かに小さく形成されている。そして、この取付用台板B2には、適宜固着手段（例えば、接着手段、釘着手段等）によって複数の装飾物B1が予め固定されている。尚、取付用台板B2の左右端縁部分に凹設した水平ガイド溝8と、左右側板3の内表面下部に突設したガイド突起7とによる摺動機構が採用されているが、例えば、取付用台板B2の左右端縁部分が、左右側板3の内表面下部に凹設したガイド溝部分に対して摺動するように構成したものであっても良いし、その他の適宜手段を採用できるものである。

20

【0022】

ところで、収納・飾り装置の具体的構成、形状、寸法、材質、収納兼用台箱Aの具体的構成、形状、寸法、材質、箱本体A1の具体的構成、形状、寸法、材質、蓋体A2の具体的構成、形状、寸法、材質、配設位置、装飾体Bの具体的構成、形状、寸法、材質、装飾物B1の具体的構成、形状、寸法、材質、数、配設状態、取付用台板B2の具体的構成、形状、寸法、材質、他の装飾体Cの具体的構成、形状、寸法、材質、数、配設状態、底板1の具体的構成、形状、寸法、材質、背板2の具体的構成、形状、寸法、材質、左右側板3の具体的構成、形状、寸法、材質、天板4の具体的構成、形状、寸法、材質、脚部5の具体的構成、形状、寸法、材質、配設位置、垂直ガイド溝6の具体的構成、形状、寸法、配設位置、ガイド突起7の具体的構成、形状、寸法、材質、配設位置、水平ガイド溝8の具体的構成、形状、寸法、配設位置、取手部9の具体的構成、形状、寸法、配設位置等は図示例のもの等に限定されることなく適宜自由に設定、変更できるものである。

30

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図1】本考案の収納・飾り装置を例示する一部切欠正面図である。

40

【図2】本考案の収納・飾り装置を例示する一部切欠側面図である。

【図3】本考案の収納・飾り装置を例示する斜視図である。

【符号の説明】

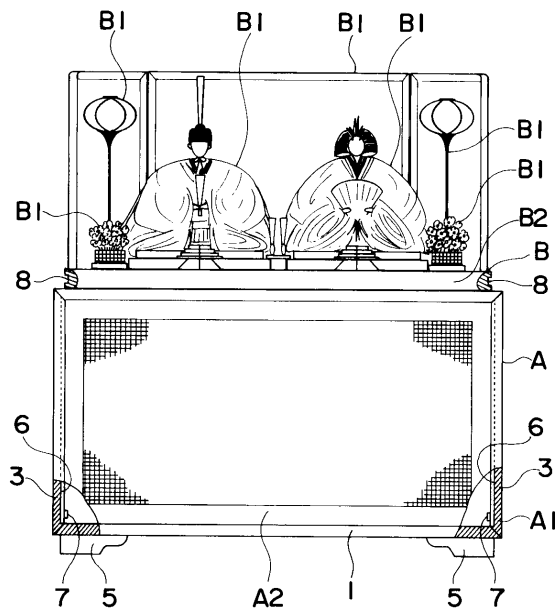
【0024】

- A 収納兼用台箱
- A1 箱本体
- A2 蓋体
- B 装飾体
- B1 装飾物
- B2 取付用台板

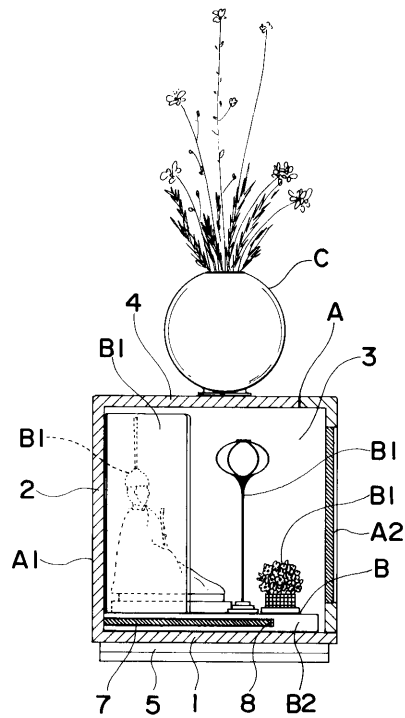
50

- C 他の装飾体
- 1 底板
- 2 背板
- 3 側板
- 4 天板
- 5 脚部
- 6 垂直ガイド溝
- 7 ガイド突起
- 8 水平ガイド溝
- 9 取手部

【図 1】



【図 2】



【図 3】

